

マゴソ通信



冒頭からで申し訳ございませんが、ペシャワール会の中村哲医師の逝去は、医師として、国際協力に関わる者として、命をつなぐ活動をする者として、尊敬し、目標としてきただけに、悲しくてやりきれない思いです。でも、先生、見ていて下さい、私たちもあきらめませんから。

さて、2020年、支える会も5年目を迎え、このマゴソ通信も10号を数え、結成当初想定していた年間支援額を遥かに越える金額を皆さまからいただいております。また本号で特集していますように中学生や高校生の活動など裾野の広がりを実感でき、企業や団体からも様々ご支援を頂いております。心より感謝します。

マゴソスクールでは新年度が始まり、新しい仲間を迎え、子どもたちは皆さまの支えもあって、希望にあふれる日々を過ごしてくれていることでしょうか。ホームページに掲載された2019年末のファッションショーとクリスマスパーティの写真を見て頂けましたでしょうか？こんな生き生きとした子どもたちの様子を見ると、もう一踏ん張りしようと言う気持ちが湧いて来ます。

でも現実には、もう一踏ん張りでは足りないかもしれません。

国連 WPF からの支援は途絶えてしまい、給食を様々節約しても尚、月々の給食費の高騰は子どもたちやその家族の身体を徐々に苛みます。また昨年別のスラムでの学校の倒壊・死亡事故を受けて、ケニア全土の学校の施設点検が実施され、基準に満たない施設では学校を継続することができなくなりました。マゴソスクールも何力所も改善の必要な箇所を指摘され、新学期に間に合う様に改修工事を実施しました。その経費は緊急に立ち上げたクラウドファンディングにより何とかまかなうことができました。皆さまの素早いご厚情に深謝しています。

卒業生たちに目を向けると、日本留学中のドリスが今春大学卒業し、大学院への進学を希望して頑張っています。その応援のためのクラウドファンディングも始まりました。今回の卒業生、嬉しいことではあるのですが、進学を希望し、成績の良かった卒業生たちは恵まれない家庭・家族環境の子どもが多く、彼ら彼女らの夢の実現には例年以上に支えが必要です。そして今回支える会として皆さまからOBOG支援として頂いた募金で必ずしも成績が良くなかった卒業生の進学を支援することにしました。夢が広がります。

他、一昨年より加速度的に進められている強制撤去や今シーズンの雨期の豪雨被害などもボディブローの如く効いてきます。何よりも、良い教育を子どもたちに提供するためスタッフの質と人数を確保し、生活を支えることが大きな仕事です。

日本も社会福祉がおざなりにされ、子どもの七人に一人が相対的貧困にある状況の中ではありますが、SDGsのキーワード「誰ひとり、取り残さない」に則り、手作り給食募金箱、書き損じハガキなど様々な取り組みを通じて、一層の心寄せを重ねてお願いいたします。

新しい年が皆さまと特にマゴソの子どもたちにとって恵み豊かな1年となる様祈ります。 会長 大城研司

支える会からのお知らせとお願い

- ✂ 2020年1月現在のサポーター数は363名です。
- ✂ パンフレット・会報等が入用な場合は事務局までご連絡ください。
- ✂ 会報が重複して届いたり、不要な場合は、事務局までお知らせいただければありがたく思います。
- ✂ 振込用紙は発送作業の都合上、全員に入れさせていただいております。ご了承ください。
- ✂ 会費の領収書が、必要な場合は事務局までお知らせください。
- ✂ 専従スタッフがおりませんため、ご寄付のお礼(領収書)の発送が遅れますことお詫び申し上げます。

マゴソスクールへの支援物資は、支える会では受け付けておりません。早川千晶さんとご相談の上、ご自身で現地までお持ちくださるようお願いいたします。



クリスマスのコマ

マゴソスクールを支える会

事務局 〒511-0044 三重県桑名市大字萱町54-1

Mail: info@magoso.jp HP: <http://magoso.jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/magososupportersclub/>

大阪府富田林市の中学校での取り組み

富田林市の多くの小中学校で早川さんの講演が行われ、感銘を受けた生徒の皆さんが募金活動を行ってくれています。これは、2007年にスタディツアーに参加した小学校の先生と早川さんの出会いが出发点です。その先生は次のように話してくださいました。

「私が勤めていた小学校に早川さんを招いて講演していただいたことをきっかけに10年以上交流が続いています。市内の人権教育推進のための多文化共生部会の研修でも講演していただき、早川さんの取り組みやマゴソスクールについて知っていただく機会になりました。そこから多数の小中学校でも講演していただけることになりました。今、このように早川さんのお話を聞いて、何かを感じ、心動かされた子どもたちが、各小中学校で様々な取り組みをしてくださっていることを、とても嬉しく思います。そして、遠い国であるケニアを身近な国にしてくれた早川さんにとっても感謝しています。」

今回、4つの中学校にお願いし、取り組みや講演を聞いた生徒さんたちの感想を教えてくださいました。

1. 富田林市立第二中学校

早川さんに初めて来ていただいたのは、3年前でした。厳しい環境の中、夢を持ち実現させているマゴソスクールの生徒の話、それを支援されている早川さんの想い、そして二中生へのメッセージと生徒たちは素晴らしい出会いをさせていただきました。

感銘を受けた生徒会の女子が『マゴソスクールのために何かしたい!』と言ってきました。給食募金のことを伝えると、自分たちで調べ、集会で全校生徒に伝え募金活動を行いました。ある生徒は家でこの話をし、保護者の方が募金をしてくださったこともありました。

次の年、生徒会は想いを受け継ぎました。妹が中心に『もっとみんなに知ってもらいたい。期間を決めたのではなくて……』ということで、生徒会のメンバーで話し合いました。そこで、『パンの販売所に募金箱を置くのはどうか』というアイデアが生まれました。パン購入の際に毎回おつりを10円入れてくれる生徒がいます。その生徒との会話も生まれました。

1年経った現在でも「先生、今日募金箱は？」と聞いてくる1年生がいます。日常の中で当たり前の様子になっています。こういった機会を生徒たちに与えていただき、ありがとうございました。



2. 富田林市立喜志中学校

早川さんに来ていただくのは本校では初めての取り組みでした。前任校で早川さんの講演を聞き、大変感銘を受けたことから、本校の生徒たちにも聞いてほしいと思っていた時にご縁をいただき、今回の講演が実現しました。生徒たちはアフリカやケニアの文化について事前学習をし、早川さんに聞いてみたいことなどをまとめて当日を迎えました。講演会は一時間半ほどありましたが、どの生徒も早川さんの話に引き込まれるように聞き入っていました。

生徒の皆さんの感想

- とても印象に残る話ばかりでした。将来は海外で誰かの役に立つような仕事をしたいと思っていたので、早川さんの話を聞いてその気持ちが一層強くなりました。
- 明るく話をしてくださっていましたが、見えないところでは大変なことがたくさんあったと思います。それでもケニアの子どもたちのために活動されている早川さんはすごいと思ったし、マゴソスクールの生徒のみなさんにも会いたかったです。
- 自分たちと同じ年齢の子どもたちが、学校の給食でしかごはんを食べられないという話を聞いて、自分たちが普通に食べた残り残したりしている給食の大切さを感じたし、残さないようにしようと思った。今回募金したお金が少しでも役に立てばいいなと思う。



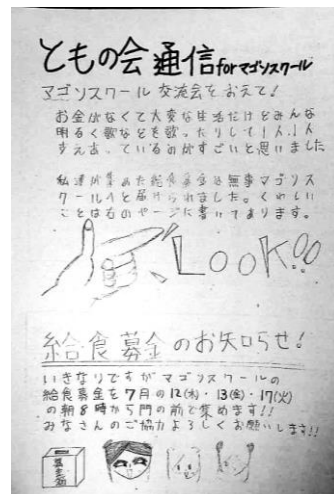
3. 富田林市立第一中学校

給食募金について

毎年のように来ていただく早川さんのお話を聞いて、その時の国際交流サークルや生徒会などが考えて、募金活動を行ってきました。朝校門にたっていると一中生や教職員だけでなく、校門前を通る高校生や地域の方まで募金して下さることも。たくさんのお金を千晶さんに渡すと重いですが、とても笑顔になっていただいて、こちらもとてもうれしい気持ちになります。みんなの思いが少しでも伝わればいいなと毎回思っています。

生徒の皆さんの感想

- ◎ キベラスラムでは服や食べ物などが少なく不便なところがあるけど、中でも力強く生きて、命を大切にしているのだなあと思いました。
- ◎ 話を聞いて思ったことは家や水やごはんがなくても子どもがいればいいっていったのを見てすごいと思いました。
- ◎ 今日のお話を聞いて、ケニアは貧富の差があると聞いてたいへんだなと思いましたが、マゴソスクールの人たちは弱音をはかないのがすごいと思うしその考えかたもすごいと思いました。
- ◎ キベラスラムの人たちは無いものは多いし、不便なこともいっぱいあるはずなのに、生きていだけで幸せだと思えるのはすごいことだし、とてもいいなと思った。私的に、お金っていうのはあったほうが不幸になってしまうんじゃないかなと思った。
- ◎ 同じ人々でもこんなにまずしい人々がいるっていうのは心が痛みました。だけど、このような生活でも、前向きに真剣に生きているというのにとっても感動して、自分もこのようなゆうふくな生活ができているので、自分ともしんけんにむきあって生きていきたいと思いました。
- ◎ ケニア（マゴソスクール）の方と、日本（現代）人の考え、文化の差を感じた。今の生活、命ある自分に感謝する人々、常に進化・変化を求め、命に対し、大きな感情のない人々。自分はずっと良い、悪いはないと思う。空腹で、死んでいく人が多い国、環境に耐えられず自ら死んでいく人が多い国。どちらも「かわいそう」と言うのは失礼、不謹慎なのではないかと思う。「かわいそう」を口に出すのなら、その感情を行動に。死ぬ必要のない人が死んでいく環境をなくす世界に変える動きをするのが一番なのかなと思った。Hakuna matata!! スワヒリ語覚えたいな…。
- ◎ 僕たちに何かできることはないか、何かしたいと思いました。実際にそのキベラスラムのじょうきょうを見て、たのしく生活できるささえになりたいと思いました。



4. 明治池中学校

早川千晶さんに講演に来ていただく前に、事前授業において早川さんやマゴソスクールの紹介、キベラスラムの現状などを学習しました。早川さんから講演をお聞きした後、生徒会を中心に募金活動や文房具などの集める活動を行いました。集めた文房具は、元教員で、エジプト・カイロの日本人学校に勤務されている先生に、昨年末マゴソスクールまで届けてもらいました。

生徒のみなさんの感想

- ☞ 早川さんのお話を聞いて、貧しい暮らしはしているけれど、キベラスラムでいきている方は前向きで助け合いながらも生きているのは、とてもすごいなと思いました。リリアンさんは、自分の生活は苦しいのに、他の人々のことに目を向けて、人の命を大切にしているのは、とても尊敬し、とても素晴らしい人だと思いました。
- ☞ マゴソスクールの子達は、夢をあきらめず努力しているところが本当にかっこいいです。私も夢をあきらめず努力し続けて生きていき、困っている人がいたら助けられたらいいと思いました。
- ☞ 自分のことじゃなく、相手のことを心配できるぐらい優しくなること。これができれば差別がなくなると思います。困っている人がいたら助ける。あたりまえのように思えますが、これはとても大切なんだなと感じました。

今回紹介できませんでしたが、富田林市の中学校以外にも、マゴソスクールを支えて下さる学校はたくさんあります。神戸市にある学校は、マゴソ班をつくり、文化祭での展示とグッズの委託販売・クリスマス募金を、支える会ができる前から継続しておこなってくださっています。若い人たちの素直な思い・行動は、同じ年頃であるマゴソスクールの子供たちにとって、大きな励みになります。本当に、有難うございます。

クリスマス募金ありがとうございました。(総額 114,767円)

キベラスラムで暮らす人々は、クリスマスでも正月でも、休むことは出来ず、ずっと働き続けますが、せめて一日だけでもみんなで楽しい時間を過ごし、ささやかでも心づくしのごちそうを皆でいただき、クリスマスをお祝いすることが出来ればと毎年願っています。

今年も、12月8日(日)にクリスマスパーティとファッションショーを開催しました。この日を楽しみにしていた子どもたちや保護者の皆さん、近所の方々が、雨の中、マゴソスクールに集まりました。日中だけ奇跡的に晴れ間が少しだけ出て、パーティを楽しみ、皆でお祈りし、ごちそうをいただくことが出来ました。ごちそうを作ってくれたのは、マゴソOB OGクラブ(マゴソスクールを卒業した高校生や大学生たち)でした。歌あり、踊りあり、ファッションショーあり、ごちそうありで、とても楽しい時間を過ごしました。卒業生もたくさん集まってきて、まるで同窓会のようにになりました。

2019年の締めくくりに、こんなに楽しいクリスマスパーティを開催させていただけたことを、心より感謝いたします。

緊急校舎修繕工事募金ありがとうございました。

2019年9月23日、ナイロビの貧困地区で生徒数800人の小学校が倒壊、7名の生徒が死亡、60名以上が負傷するという痛ましい事故が起きました。これに伴い、ケニア政府は全土の学校に調査を派遣し、建設状態の不十分な学校は閉鎖となりました。キベラスラムでも、50校は閉鎖されたのではないかとされています。

マゴソスクールにも9月のうちに調査が入り、不十分な箇所をいくつも指摘され、3カ月以内に改装しなければ閉鎖するという通達が教育省から届きました。

「子どもたちには不安を感じさせたくない、『マゴソスクールは閉鎖しない、マゴソスクールは続けていく、みんなの拠り所になる場所は決して無くない』と、安心感を与え続けていきたい。」そんな思いで、クラウドファンディングをお願いしたところ、目標金額の100万円を上回る118万円のご支援を頂きました。

これを使い、校舎の修繕工事に入りました。まだ、全てが完了していませんが、一番の難工事である2階へのもう一つの階段は無事設置されました。

本当にご協力ありがとうございました。



↓ 改修工事の一例
安全な階段が設置されました



マゴソOB OGクラブ13期生

早川千晶 4月ポレポレキ
ャラパンでのトーク&
ライブ、講演、ワークショッ
プなど、イベント主催募集
中
問い合わせは、以下にお願
いします。

chiakinairobi@gmail.com

OB OG支援の新しい形がはじまりました。

今年もKCPE受験が終わり、マゴソスクールから48名、ジュンバから7名、合計55名の卒業生が出ました。卒業生のうち、進学するための費用を保護者が負担できない場合、OB OGクラブの奨学生として支援をしています。支援対象になる生徒については、家庭訪問、生活状況の調査を行います。

必要な経費は、事情により異なりますが平均すると1年間で12万円~15万円くらいです。

今までは、一人の生徒を一人の方(あるいはグループ)が支援するという方法「スポンサーシップ」をとってきました。これだと年間にご負担いただく費用が大きいため、新たに二つの支援方法を準備いたしました。

支える会として支援する生徒を、① 定期的に一定額を寄付することでサポートして頂く「OB OG サポーター」と ② 単発の寄付をして頂く「OB OG クラブ寄付」です。

詳細につきましては、支える会のHP「ご支援方法」をご覧ください。支える会事務局にお問い合わせください。

「ゆっくりと話を聞いていくと、普段の笑顔からは見えてこない生活の厳しさが、ひしひしと伝わってくる。事情は様々だが、教育が光、マゴソが救いだっただと。」これは早川さんが、支援を受けているOB OGの家庭を訪問した時の言葉です。

未使用の年賀状・年賀切手・書き損じの年賀状・切手シートが当選した年賀状などを送ってください。

皆様からの会費やご寄付はすべてマゴソスクールに送り、会報の印刷・郵送には使っておりません。会報の郵送のために、未使用切手やはがきを会の事務局に送って頂くなど、ご協力いただければありがたく思います。

未使用の年賀状・書き損じの年賀状は、手数料5円を払うと普通切手に交換してもらえます。手数料は、交換できる金額から差し引いてくれます。書き損じの年賀状や当選年賀状を送って頂いた場合は、責任を持ってシュレッダーにかけ、処分いたします。